

# 博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



2014年1月2日(木)  
から新春開館!



2013年のカウントダウンと同時に、2014年の幕開けがやってきます。ということで、今号の表紙では、博物館正月情報をお届け。

さて、新年は1月2日から開館いたします。チケットご購入のお客様先着400名様にもれなく、縁起入浴剤か、お馬の根付が当たる新春縁起くじのチャンス！景品が無くなり次第終了です。お正月だけの特典ですよ！

また、博物館売店では、もーん父さんの他、恵比寿大黒様や、招き猫やダルマやフクロウなど新作金箔置物も並んでいます。

お正月、どこか遊びに行きたいと思ったら、ぜひ当館へおいでください♪



# 山金(鉍石からの産金)開始時期について

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 谷口一夫・広瀬義朗

## 1. 甲斐金山における特徴的なテラス群と産金形態

湯之奥金山は中山・内山・茅小屋3金山の総称で、身延町湯之奥の山中に、その残像(遺跡)を残している。湯之奥3金山である中山・内山・茅小屋金山は、金山終焉期の湯之奥・門西家文書では中山村、内山村、茅小屋村という村名で存在する。

また中山は、(元龜2年)1571年北条氏康の属城・深沢城(静岡県御殿場市)攻めでの褒賞で粃米150俵を与えられたが武田信玄の書状に「中山之金山衆拾人」とあり、中山村の存在と十人の金山衆がいたことが分かる。これらは平成元年(1989)の中山金山の総合調査で明らかになっている。

甲斐金山における金山のあり方を知る綿密な発掘や測量調査を伴う総合調査は、甲州市の黒川金山と身延町湯之奥中山金山、その後、2010年に湯之奥茅小屋、2011年に内山金山の現地踏査を含む測量調査が実施され、甲斐金山に特徴的な、沢を挟み広がる不定形なテラス(平坦地)群が明らかとなっているが、日本各地の金山ではこれに類似するテラス群は見つかっていない。中山金山のテラスからは1450年頃からの中国陶磁器片や鉍石を粉成す鉍山道具が存在しその時代の開発が伺えるが、順次、内山・茅小屋へと産金活動は連動し、閉山は貞享3年(1686)茅小屋村の金山退転文書(門西家文書)にみられる形で終焉する。

甲斐国の産金については、文禄3年(1594)、浅野氏が丹波山の金掘りに発給した文書に「丹波山の内、山河芝間、黄金前々のごとく掘るべきのこと」とあり、「山金(鉍石からの産金)、川金(川底からの砂金採掘)、芝金(河岸段丘に残った金)」という三様の産金形態が認識されるが、これまでの研究で湯之奥中山金山は、わが国における8世紀中葉からの砂金・芝金採掘に代わる、新たな15世紀後半に始まった初源的な山金山として風化残留鉍床を露天掘りしたという位置づけで考えられている。

(館長・谷口一夫)

## 2. 風化残留鉍床の考古学的位置付け

ここでいうところの「風化残留鉍床」とは、鉍床学の用語で“金を含む鉍脈が風化し、源(元)鉍脈に近い場所に小礫・砂状化して堆積したもの”を指す。この風化残留鉍床中には源鉍脈に含まれていた金が残されており、鉍脈に含まれる金を採取するよりも以前の時代に盛んに採掘されたと考えられる。

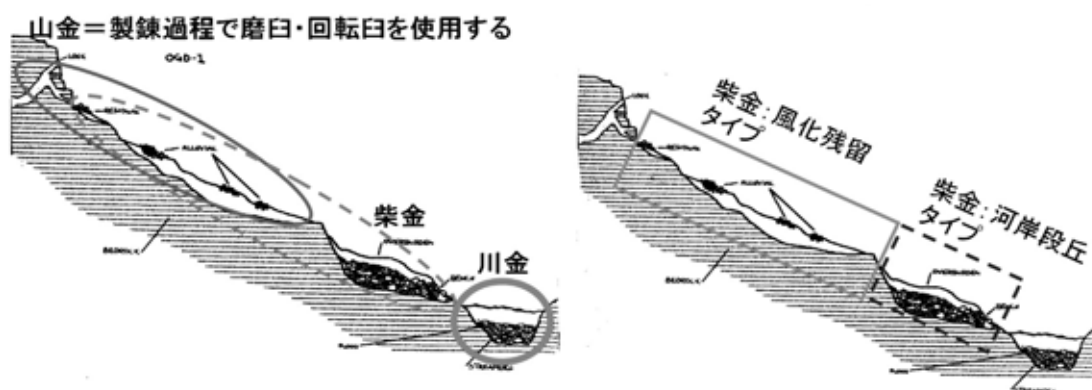
日本の初期産金は河床からの砂金採取に始まり、次第に河岸段丘からの芝(柴)金採掘に移行していったと考えられるが、その後、15世紀に始まるといわれる山金採取に至るには製錬に用いられる新たな鉍山道具の導入を含めた進歩が必要だったと考えられる。その過程の一つが風化残留鉍床からの金採取であり、それに必要な鉍山臼の導入であろう。

第3図は外国文献にみる山金、芝(柴)金、砂金採掘の概念図であるが、この図に照らし合わせると三様のあり方が理解し易い。

8世紀中葉における初期産金地は、川底に沈む川金(砂金)と、河岸段丘に残留した芝(柴)金の採掘だった。川金・芝(柴)金を掘り尽くし、金の存在を追って辿り着いた先が風化残留鉍床であろう。この風化残留鉍床に含まれる金は、鉍脈中に存在する山金と、河川または河岸段丘中に存在する川金・

芝(柴)金(広義の砂金)との中間的な形態を示す。すなわち風化による鉱石からの金の分離が完全でないために、鉱石(多くは石英)中に金を含む、または密着したものが多く存在する。このような形態の鉱石に対して直接、鉱山におけるせり板・揺り板などを用いた比重選鉱の工程を行っても、金の流出による損失が多くなるので、この工程の前段階として小礫・砂状の鉱石を物理的な手法により粉碎・細粒化する必要がある。

鉱石の物理的な粉碎・細粒化は、具体的には搗き臼・磨り臼・回転臼など各種の臼によるものであり、鉱山遺跡においてこれらの臼が使用されていた痕跡(例えば揺りかすの堆積の存在)、または鉱石を粉成す遺物としての臼が存在する場合、考古学的には、その鉱山での金採掘は山金的手法によるものと判断することが可能であろう。(砂金・砂白金学会事務局 広瀬義朗)



第1図 The Modern GOLDSEEKERS Manual p.13の図に広瀬義朗加筆

### 3. おわりに

山金の採掘は15世紀(1400年代)後半に甲斐国の諸金山、特に黒川金山や湯之奥3金山において始まったが、湯之奥中山金山では第1図左の楕円の実線内にある風化残留鉱床をねらい中山の尾根上と、それに沿った「ほうろく沢」に露天掘り跡77ヶ所を残している。

砂金・芝金から山金採掘の画期は、考古学における判断では、鉱石を粉成す道具の出現期=山金の開始時期として捉えているが、黒川金山や湯之奥3金山はそれに当てはまる。また近年佐渡においては、西三川の虎丸山や笹川十八ヶ村の調査事例に見られる広大な砂金採掘遺構が明らかとなってきている。堤を築き水路を張り巡らせ、金を含む堆積層に水をかけ、水路に落とし砂金採集と同手法で産金する姿が明らかとなってきたが(2012佐渡市)、黒川・中山など甲斐金山や長野県・金鶏金山で見られる風化残留鉱床(1998五味篤)とは異なり、1500万年前、一旦、川・海などへ堆積したものが隆起して地上に上がった、いわゆる砂礫岩層(下戸層)からの産金の姿があった。あえて「山河芝」にこだわるなら、「芝(柴)金採掘」という範疇に入ると言える。

この産金事例は、全国的に類例が見え始めて来ている。鉱石を粉成す道具(磨り臼・挽き臼)があれば山金採掘跡と判断されるが、現段階では道具が伴出したとの報告はされていない。また芝(柴)金採掘のタイプには、第1図右に見られるような風化残留タイプと河岸段丘タイプの2つに分類できるという第1回砂金研究フォーラム(2013金山博物館)での広瀬義朗による発表事例がある。

(谷口一夫・広瀬義朗)

参考文献:「湯之奥金山遺跡の研究」湯之奥金山遺跡学術調査会1992、「甲斐黒川金山」黒川金山遺跡研究会1997、「西三川砂金山遺跡分布調査報告書」佐渡市・同教育委員会2012、「離島佐渡」第二版 野島出版2011、「長野県茅野市金澤金鶏鉱山の歴史と地質鉱床」五味篤 地学研究第46巻第4号

# 25年11月・12月の博物館活動報告

## 醍醐山登山会

11月10日（日）

身延町のスカイツリーに登ろうという趣旨で開催された醍醐山登山。身延町下部温泉が、明るい話題で付加価値が高まるようにという思いのもと、登山道の整備など尽力してきた地元の有志の皆さんが企画された登山に同行させていただいたものです。

この日は「醍醐山を愛する会」の皆さんと「自然愛好部」の皆さんと当館との共催事業ということで、40人以上の参加者が集まりました。登山先導は、山梨県山岳連盟会員でもある甲府昭和山岳会の磯野澄也さんらです。

JR身延線の甲斐常葉駅をスタートし、片道およそ1時間ちょっと。最初はなだらかな道も、だんだん山らしくなってきた、山頂に向かう最後の階段はかなり傾斜がありましたが、全員登頂。山頂では山梨県山岳連盟の皆さんによる湯茶の接待などをいただいていたところ、このタイミングで少し雨脚が強くなってきて、プログラムを端折って下山に向かいました。

醍醐山を愛する会からは、今回の参加者全員に醍醐山のイメージソングが入ったCDもプレゼントいただきました。雨のため昼過ぎには下山し短い山行となりましたが、博物館に戻るころにはまた晴天に回復しましたから、結果としては幸い頂上での小雨程度で済み、秋の醍醐山をそれぞれ楽しむことができました。

標高634mの醍醐山、山が得意な方にはちょっとしたハイキングコース、初心者の方なら「まずは手始めに」という感じで気軽に登ることが出来る山です。登山道もキレイです。是非、機会があったら登ってみてください。

### 醍醐山CD配布のお知らせ

これまで協力して頂いた方々への感謝の思いがCDになりました。

郷土愛あふれる情熱で、精力的にプロデュースする醍醐山がついに歌になり、制作されたCDです。博物館でも配布中。醍醐山に興味のある方、歌を聞きたいという方にお配りいたしております。博物館まで受け取りに来れる方、この機会を是非ご利用ください。なお、CDはなくなり次第、配布終了となります。

醍醐山ブログはこちら → <http://plaza.rakuten.co.jp/daigoyama/>



## 上野原・金山金山&大月・金山金山遺跡見学会

11月16日（土）

この日は晴天に恵まれ、定員をうわまわる20人以上の町内外の方々が、この見学会にご参加くださいました。

博物館を出発し、中央道から大月に向かい、最初の見学地である大月金山金山は「民宿・河野園」のオーナー・河野正雄さんに、昔から伝わる金山にまつわるお話しや、この辺りで発見された鉾山白のことについてお話しを伺った後、坑道跡などを50分ほど見学し、大月を後にしました。50分ほどの見学を終えて、二つめの見学地・秋山金山地区へ向かいました。大月からおよそ1時間ほどで到着した頃、時刻はちょうどお昼時。

昼食後に見学という予定でしたが、秋山でご案内くださる星野さんのお宅では、私たちの到着時間に合わせて、なんと温かいキノコのお味噌汁や、竹炭のおそばを支度してくださっていました。



また、地元の皆さんも大勢応援にきてくださり、思いがけないご歓待とお心遣いに、参加者全員、大変嬉しく驚きました。和気藹々としたしばしの昼食タイムをすませ、いよいよ見学開始。

星野さんの他に秋山の文化協会関係者の方々にお互いに挨拶させていただいた後、堤防建設に伴った金山金山の調査経過や伝わる伝承などをお話いただき、金山神社の見学、そしてその前の山の中に存在する近代の坑道を見学。そこから、金山金山の露天掘り跡まで登山しました。

ご案内の星野さんは、御年80近いとおっしゃるのですが、とてもそうは見えない大変な健脚で、しかも今回歩いた道は、この見学会のために、山道を整備して歩きやすいようにしてくれていたのです。

約30分程の登山で尾根まで辿り着き、露天掘り跡と坑道跡を見学しました。半分埋もれかけてはいるものの坑口もあり、短時間でしたが現地を観察していました。その後は来た道に戻り、全員がちょうど3時半くらいに昨年、開館した秋山金山資料館まで戻りました。

下山に合わせてご用意してくださった美味しいゆず湯をいただいた後、改めてご案内に関わってくださった皆さんに御礼を述べ、秋山を後にしました。帰りには、全員分のゆずとキウイのお土産までご用意くださり、終始、星野さんはじめ秋山の皆さんのお気遣いに感謝しながら、現地を後にしました。

博物館に到着したのは夕刻5時半くらいでしたが、参加者からは一様に、とても楽しく心遣いが嬉しかった、という意見をいただき、盛會に終えることが出来ました。秋山の皆さんの姿に、“地元を愛する”という人の力を久方ぶりに見たような気がしましたが、今後もおなじ金山つながりの地域同士、情報交換をしつつ、良い関係を築いていけたら、と改めて感じました。



## 内山・茅小屋金山遺跡 調査中間報告（2）

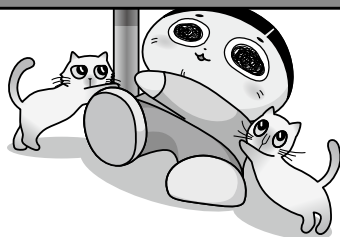
11月中

65号でもお伝えしましたが、11月中の週末、博物館関係者や、山岳会有志の皆さんの協力を得ながら、湯之奥内山・茅小屋金山の独自調査を進めていました。測量調査でもずいぶんといろんなことが明らかになったと感じていましたが、今回の踏査を進めて、さらに現場が明らかになり、同時に謎が深まり、仮説が膨らんでいくという状況が続き、関係者を驚かせています。まず、内山金山エリアからは、4日間の踏査で、新旧合わせて新たに坑道が5本、露天掘り跡らしき箇所を一箇所（詳細未確認）。茅小屋金山と考えられるかもしれないエリアからも坑道が2本確認されているのです。

「かもしれない」というのは坑道が確認できても詳細の調査がまだできていないからです。現場に到着するまでで3時間。山中を歩きまわって午後2時には下山に向かわなければなりませんから、非常に険しい毛無山の未踏査の箇所を歩き回ること自体困難なのです。残念ながら冬の時期に入ってしまったので、季節が変わって暖くなるまで現地への調査はできませんが、また、時期が良くなったら踏査を再開いたします。次号からはこの調査の結果を、図面などと合わせて紹介して参ります。



## 博物館事業のお知らせ



## 2月23日(日)富士山の日 すず錫のコースター作りに挑戦★ 定員10名！参加者募集！

最近、資源として見直されている<sup>すず</sup>錫ですが、この錫の地金がコースターに大変身！

自分でデザインした型に熱した錫を流し込み、

しばらく待って冷やして固めると、デザインの模様が浮き出ます。

今回、初登場の手作り体験ですので、どなた様もお気軽にご参加ください。

講師は、峡南高校の先生と生徒さん!!シルバーアクセサリ作り体験教室と同様、優しく教えてくれるので、初めての方でも安心して体験できますよ。

**日 時：平成26年2月23日(日) 第1回：午前10時30分～午前11時30分  
第2回：午後1時～午後2時  
(作業時間は1時間です)**

定 員：各回とも10人まで(先着順・定員になり次第締め切ります)

対 象：小学生～一般(小さいお子様は保護者の方が同伴してください)

場 所：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館多目的ホール

参加費：500円(材料費として)

講 師：五十嵐智則先生(山梨県立峡南高等学校教諭)、峡南高等学校の生徒の皆さん

なお、世界文化遺産登録された富士山。2月23日の「ふじさんの日」に合わせ、この日に限り富士山デザインキーホルダー作り体験も同時開催いたします。こちらはご予約なしでも、どなた様も作成できますので合わせてお楽しみください。

開催時間 同日 午前10時30分～午後2時30分迄

場 所 博物館エントランス

★キーホルダー1個作成につき100円頂戴いたします★

## 第2回「金山遺跡・砂金研究フォーラム」のお知らせ

**期 日：平成26年2月1日(土) 午後1時30分～午後5時まで**

場 所：博物館多目的ホール(博物館1階)

参加費：500円(資料代として)

主 催：博物館応援団Au会

共 催：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

前号でもお知らせしております「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催する、研究発表会「金山遺跡・砂金研究フォーラム」を、2月1日(土)に開催いたします。

これまで重ねられてきた金山研究の進展発表と、金山博物館を拠点にフィールドワークを展開している皆さんが、積み重ねてきた経験や体験、さらに今まで感じていた疑問点などをテーマに発表いたします。現在、発表者や発表内容など調整中です。内容決定し次第、博物館ホームページでもお知らせいたします。

各自の研究成果や情報を真面目に発信しつつ「誰でも参加できる気軽な発表会」がコンセプト。参加お申込み・問い合わせは、湯之奥金山博物館内・湯之奥金山博物館応援団事務局(0556-36-0015)まで。※なお、発表者も現在募集中ですので、お気軽にお問合せください。

# 「湯之奥金山の財宝を追え！」第1回公演大盛況でした

12月8日(日)

金山博物館で初めてのイベント、リアル謎解きゲーム『湯之奥金山の財宝を追え!!』。

ゲーム内容を改めて述べると、湯之奥金山博物館を舞台に、謎解きをする体感型ゲーム。解かなければならない問題として提示される謎やパズルは、博物館内の展示を見たりしないと解けなかったり、仲間と協力をしなければ解けなかったりするので、友達や親子で一緒だと、今まで以上に親睦が深まること請け合い。さらに金山博物館の学習も自然とできてしまうという相乗効果が期待できます。

募集定員30名定員としていたのですが、予想を超える反響で、8グループ50名以上というたくさんの皆さんを迎えての開催となりました。

簡単に今回の謎解きゲームの流れを説明すると、まず机の上の封筒、この中に問題である「謎」が入っており、壁にある「謎」も含めて、11個の「謎」を解くと、ある言葉ができます。それが解ると、「関所」で宝の地図をもらうことが出来、その宝の地図に隠された「謎」を解くと、「坑道」に入ることが出来ます。坑道では、宝箱を入手できますが、この宝箱は鍵付き。この鍵を開けるには、4ケタの数字が必要で、この4ケタの数字はこれまで解いてきた謎からヒントを得て考えないと開けることはできません。見事、開けることができたなら……。

ということで、制限時間は60分なのですが、謎解き初体験の皆さんにとっては、最初の問題から頭の中には?????がいっぱい。最初の10分ぐらいは何から手を付けて良いのか大いに迷っていました。しかし、時間の経過と、またスタッフのアドバイスで、だんだん謎も解けていき、コツが解ってきたようでした。

60分のうち、第一ポイントを通すための謎を解くのに、平均20～30分ですが、悪戦苦闘で30分経過しても、どのグループも終わる様子がありませんでしたので、この時点で10分延長を決定し、ゲーム終了後にそのことを告げたのでした。第2ポイントの関所を何とか全グループが通過したのは実際には開始から50分過ぎ。何グループかが第3ポイントの「坑道」までできましたが、10分延長した実質70分で箱を開けて、最後の謎までたどり着いたのは、1組だけ。その1組も箱を開けるのが精いっぱい、最後の問題を解く時間がなく、結果、今回、湯之奥金山の財宝を探し出せたグループはゼロだったのです。

アンケートでは、今回参加したほとんどの方が、『絶対リベンジしたい』という回答で、大変楽しんでいただけの様子が伝わってきました。ゲーム終了後には、この謎の解き方解説をしていますので、今回参加された皆さんは、『湯之奥金山の財宝を追え!!』には、再チャレンジできません。しかし、またいずれ違う謎を用意いたしますので、その時にはぜひご参加ください。

ということで、大好評だった『湯之奥金山の財宝を追え!!』は、新年に入りましたら再演いたします！今回、残念ながら参加できなかった！という方！奮ってご参加ください。そして初回に参加された方は、方々に「面白かった」「参加してみて！」と、周囲に広く強く宣伝してください。

『湯之奥金山の財宝を追え!!』の再演情報については、次ページをご覧ください。



リアル謎解きゲーム×  
湯之奥金山博物館

宝箱を開けてみよ  
すべての謎を解き明かし



金山業が残した財宝は何処に…

湯之奥金山の財宝を追え!!

「湯之奥金山の財宝を追え!!」  
好評につき、再演決定!!

期 日：●平成26年1月25日（土）  
●平成26年2月11日（火・祝）  
両日とも午後1時30分～  
午後3時30分

場 所：博物館多目的ホール（博物館1階）

主 催：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館

定 員：30名（要事前申し込み）

参加費：大人900円（高校生以上）

小人700円（小学生～中学生）

※当日のみ利用できる“砂金採り体験チケット”付

自分がストーリーの主人公になって、隠されている幾つもの謎やパズルを解いていき、制限時間の中でその答えに近づいていく体験型エンターテインメント。「リアル脱出ゲーム」の湯之奥金山博物館版！

12月8日（日）開催の第1回目、50名以上のご参加をいただき、大変好評でした。（7ページ記事参照）

また、参加したかったけど参加できなかった！という方が多かったため、再演を決定いたしました。1月、2月と、2回開催いたします。日程は上記のとおりです。

第1回目に参加された方は、家族やお友達に勧めてあげてください。

この謎を解くのは自分だ！という方、挑戦をお待ちしております。

※要予約制。必ず事前お申込みください。

参加されるグループの代表者様がお申込みされる場合、グループ全員の氏名、年齢（学年）、そして代表者様のご住所・電話番号をお伝えください。申し込み後に、人数変更があった場合は、必ず博物館までお知らせください。参加申し込み・お問い合わせは湯之奥金山博物館（0556-36-0015）まで。



編 集 後 記

あっという間の師走。さよなら2013年、こんにちは2014年。ということで、新年号は1月中旬から下旬くらいにお届けしていましたが『館だより』。前号からリニューアルしたことだし、時期を少し前倒しにしてみようということで、新年ならではのお得情報を掲載して皆様にお届けしました。お正月はどこにもいかないけど～こたつでゴロゴロ～、という方！謎解きゲームの再演は決定したし、年末ジャンボ宝くじも当たったことだし、どうぞ当館へ遊びに来てくださいね。え？当たってない？いやいや、買えば必ず300円が当たるってことで…。

冬時間（5月まで）の開館時間：午前9時～午後5時迄（受付は午後4時30分迄）

休館日：毎週水曜日（12月28日から翌年1月1日までの5日間は年末年始休館期間です。）

博物館だより

第66号 平成25年12月24日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス [http://www.town.minobu.lg.jp/local\\_minobu/kinzan/index.html](http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html)

博物館Eメール [yunoking@town.minobu.lg.jp](mailto:yunoking@town.minobu.lg.jp)